

欧州における脳情報通信とバイオ ICT に係る研究開発及び 倫理・安全面のガイドライン策定動向調査 概要

調査の目的

現在、欧州では、欧州連合（EU）の第七次枠組計画（FP7）で、生物学や脳科学の成果を ICT 部門へ応用し、両部門を融合させる研究に対して積極的に支援が行われており、欧州各国においても研究開発機関等で同様の研究が実施されている。

また、脳情報通信は、プライバシーの問題に深く関わる脳活動情報を解読することを前提としている側面があるので、実用化段階だけでなく、研究段階においても、倫理・安全面に配慮する必要がある。欧州は、キリスト教の倫理観を背景に、生命倫理等への関心が元来深い上に、プライバシーや個人情報の保護の問題に敏感である。

近年、日本では脳情報通信研究に関して非常に関心が高まっていることから、研究開発推進の参考とするとともに、将来的な国際レベルでの普及・展開や国際標準化を念頭に置いて、欧州における脳情報通信とバイオ ICT の研究開発の動向と、同技術の研究及び実用化に際して必要となる倫理・安全面のガイドライン策定動向を調査した。

報告書のポイント

本報告書では、欧州における脳情報通信とバイオ ICT の研究開発の動向と、倫理・安全面のガイドライン策定動向を情報収集するために、以下のポイントを中心に調査した。また、スイス、ドイツ、フランスの研究機関、大学、研究者に対してヒアリング調査を実施し、これらのヒアリングの議事録を同報告書に収録した。

1. 欧州における脳情報通信とバイオ ICT の研究開発動向
 - (1) 欧州における脳情報通信の研究開発動向
 - ・ 欧州連合の第七次枠組計画における脳情報通信の研究開発動向
 - ・ 欧州諸国における脳情報通信の研究開発動向
 - (2) 欧州におけるバイオ ICT の研究開発動向
 - ・ 欧州連合の第七次枠組計画におけるバイオ ICT の研究開発動向
 - ・ 欧州諸国におけるバイオ ICT の研究開発動向及び研究事例
2. 欧州における脳情報通信の倫理・安全面のガイドライン策定取り組み動向
 - (1) 欧州における脳情報通信の規制に関わる基本原則及び制度の概略
 - (2) 欧州連合の脳情報通信の倫理・安全面のガイドライン策定取り組み動向
 - (3) 欧州主要国における脳情報通信の倫理・安全面のガイドライン策定取り組み動向

調査実施期間

平成 24 年 4 月～平成 24 年 8 月

2012 年 8 月 10 日
NICT 欧州連携センター